

カキ生育情報

第 8 号
千葉県農林水産部
令和 3 年 1 2 月号

本年は収穫が早く、果実は小玉傾向で、糖度も低い傾向でした。落葉後から発芽前までに整枝・せん定を実施しましょう。また、うどんこ病、落葉病の予防は、発芽前の3月中下旬、カイガラムシ類の多い園では、休眠期の12～2月がそれぞれ防除適期となります。

1 1年間の気象

令和2年12月から令和3年11月の月別気象を表1に示した。月平均気温は令和2年12月、令和3年9月を除く全ての月で平年より高かった。1年間の平均気温は16.5℃で、平年より0.8℃高く、前年より0.1℃低かった。

降水量は令和3年5、7、8、10、11月が平年より多く、他は平年より少なかった。1年間の合計は1,978mmで、平年の101%、前年の96%であった。

日照時間は令和2年12月、令和3年5、8、9、11月が平年より少なく、他は平年より多かった。1年間の合計は2,137時間で、平年の108%、前年の111%であった。

表1 令和2年12月～令和3年11月の気象（暖地園芸研究所）

| 年 月 | 気 温(℃) | | | 降水量(mm) | | | 日照時間(時間) | | |
|-------|--------|------|------|---------|-------|-------|----------|-------|-------|
| | 本年 | 平年 | 前年 | 本年 | 平年 | 前年 | 本年 | 平年 | 前年 |
| R2 12 | 8.4 | 8.6 | 9.8 | 2 | 85 | 192 | 157 | 165 | 129 |
| R3 1 | 6.6 | 6.0 | 8.0 | 77 | 81 | 204 | 175 | 170 | 206 |
| 2 | 9.2 | 6.3 | 9.0 | 67 | 84 | 51 | 207 | 152 | 102 |
| 3 | 12.7 | 9.2 | 11.1 | 177 | 186 | 244 | 166 | 157 | 170 |
| 4 | 14.4 | 13.9 | 13.3 | 129 | 174 | 199 | 227 | 172 | 191 |
| 5 | 18.7 | 18.0 | 18.9 | 199 | 163 | 105 | 171 | 188 | 186 |
| 6 | 21.4 | 20.9 | 22.4 | 95 | 229 | 207 | 163 | 135 | 140 |
| 7 | 25.0 | 24.6 | 23.9 | 357 | 184 | 405 | 207 | 179 | 76 |
| 8 | 26.4 | 26.0 | 27.2 | 210 | 110 | 16 | 198 | 218 | 303 |
| 9 | 22.2 | 22.9 | 23.9 | 198 | 232 | 161 | 125 | 153 | 137 |
| 10 | 18.3 | 18.2 | 17.4 | 295 | 274 | 244 | 159 | 138 | 122 |
| 11 | 14.2 | 13.4 | 14.8 | 172 | 157 | 33 | 182 | 146 | 159 |
| 平均/計 | 16.5 | 15.7 | 16.6 | 1,978 | 1,959 | 2,061 | 2,137 | 1,973 | 1,921 |

平年値:2021年5月より、気象庁の方法と同じく1991～2020年の30年間の平均値

2 12～5月の作業

1) 整枝・せん定

整枝、せん定は落葉後から発芽前までに、凍害の危険性のある場所は厳寒期を過ぎてから実施する。結果母枝の充実度を確認したうえで、結果過多にならないように留意し、間引きせん定を中心に行い、切返しせん定による枝の更新も行う。特に不必要な徒長枝及び軟弱枝はすべて取り除き、病虫害多発園では密集した枝を風通しのよくなるように適宜間引く。

2) 摘 蕾

開花10日前～開花直前（5月上中旬頃）に行う。摘蕾は樹体の消耗を抑え、大果及び高品質果生産と隔年結果防止の効果がある。着蕾量が少ない場合は、小花、奇形花は落とすが、着蕾量を確認しながら過度に行わないようにする。着蕾量が多い場合は、充実した花蕾を1結果枝に1蕾残すように摘蕾する。

3) 病虫害防除

落葉の処分と粗皮削りは、病虫害の越冬源を絶つために防除効果が高い。うどんこ病、落葉病、黒星病の予防は、発芽前の3月中下旬が、カイガラムシ類の多い園では、休眠期の12～2月がそれぞれ防除適期となる。また、展葉期の4月下旬は、うどんこ病、ハマキムシ類、フジコナカイガラムシ及びチャノキイロアザミウマの防除適期である。防除に際しては、千葉県農作物病虫害雑草防除指針を参考に行う。

3 本年度産果実の特徴

本年産のカキの生育状況を振り返ると、3月の気温が高かったため、発芽期は平年より早く、5月の気温も平年より高かったため、開花期は平年より早かった。梅雨明けが7月16日で平年より3日早く、その後高温・乾燥が続き果実の肥大は遅れた。9～10月は天候不順の日が多く、収穫果は平年より小さかった。生理落果は平年並みで、炭疽病、汚損果及びカメムシ類の発生が多かった。

1) 収穫期

暖地園芸研究所（以下暖地園研）における収穫期を表2に示した。収穫始期、盛期及び終期はそれぞれ、「西村早生」が9月4日、9日、19日、「松本早生富有」が9月21日、26日、10月17日、「富有」が10月5日、13日、27日であった。始期は平年より「西村早生」が14日、「松本早生富有」が10日、「富有」17日早かった。盛期は平年より「西村早生」が21日、「松本早生富有」が28日、「富有」が25日早かった。終期は平年より「西村早生」が18日、「松本早生富有」及び「富有」はそれぞれ20日早かった。

市原市の「松本早生富有」の収穫始期、盛期及び終期は、それぞれ10月7日、15日、20日で、前年より始期は2日、盛期は9日、終期は15日早かった。

表2 収穫期（月/日）（暖地園芸研究所）

| 半旬 | 収穫始期 | | | 収穫盛期 | | | 収穫終期 | | |
|--------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| | 本年 | 平年 | 前年 | 本年 | 平年 | 前年 | 本年 | 平年 | 前年 |
| 西村早生 | 9/4 | 9/18 | 9/16 | 9/9 | 9/28 | 9/24 | 9/19 | 10/7 | 10/7 |
| 松本早生富有 | 9/21 | 10/11 | 10/12 | 9/26 | 10/24 | 10/26 | 10/17 | 11/6 | 11/5 |
| 富有 | 10/5 | 10/22 | 10/17 | 10/13 | 11/7 | 10/29 | 10/27 | 11/16 | 11/5 |

平年：1997～2020年の平均

但し：2019年は9月の台風により果実が落果したため、調査できず欠損値

2) 果実の品質

収穫果実の大きさ、糖度、へたすき及び汚損果程度を表3に示した。1果平均重は、「西村早生」及び「松本早生富有」が2地区の平均でみるとそれぞれ165g、204g、「富有」が242gで、それぞれ平年の83%、88%、95%、前年の101%、97%、105%であった。糖度は、「西村早生」及び「松本早生富有」が2地区の平均でみるとそれぞれ14.4、15.6、「富有」が14.5で、「西村早生」は平年及び前年より0.3低かった。「松本早生富有」は平年と同じ、「富有」は平年より0.9低く、前年よりそれぞれ0.7、1.9低かった。へたすきの発生は「西村早生」及び「松本早生富有」が前年と同程度、「富有」は前年より多かった。汚損果程度はいずれの品種も前年と同程度であった。

表3 果実の大きさ及び品質

| 品 種 | 調査地 | 1果平均重(g) | | | 糖度(Brix) | | | へたすき | | 汚損果程度 | |
|--------|------|----------|-----|-----|----------|------|------|------|----|-------|----|
| | | 本年 | 平年 | 前年 | 本年 | 平年 | 前年 | 本年 | 前年 | 本年 | 前年 |
| 西村早生 | いすみ市 | 187 | 197 | 156 | 14.8 | 14.5 | 13.7 | — | — | — | — |
| | 暖地園研 | 143 | 200 | 169 | 14.0 | 14.8 | 15.6 | 微 | 微 | 中 | 中 |
| | 平均 | 165 | 199 | 163 | 14.4 | 14.7 | 14.7 | — | — | — | — |
| 松本早生富有 | 市原市 | 198 | 214 | 182 | 16.7 | 16.0 | 16.3 | — | — | — | — |
| | 暖地園研 | 210 | 248 | 238 | 14.4 | 15.1 | 16.3 | 微 | 微 | 中 | 中 |
| | 平均 | 204 | 231 | 210 | 15.6 | 15.6 | 16.3 | — | — | — | — |
| 富有 | 暖地園研 | 242 | 254 | 231 | 14.5 | 15.4 | 16.4 | 小 | 微 | 中 | 中 |

へたすき：無、微、小、大、汚損果程度：無、少、中、多

平年：暖地園研は1990年～2020年の平均、いすみ市は1998年～202年、市原市は1999年～2020年の平均

但し2019年は9月の台風により果実が落果したため、調査できず欠損値

3) 病害虫の発生

暖地園研では、炭疽病の発生が平年より多くみられ、樹上軟化する果実も多かった。果樹カメムシ類の発生も多く、被害果も多かった。

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

【生育情報の問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。